裁之

望

さうしらるおほ人まねは秋つきて山里よりのれつみる　義省

霞

うちなびくの野もおかろよゆゑ霞やいくへ立ちぬらん　朝陽

雲

ひろ山ちるる雲よりうもれつる花の雪やいづくなるらん　信義

いけ

うちなびく花のさみの池水にかすみまくらはまもうつ　三亮

霧

うみぞのは金人やりまるみなとにぬきて岡をわたるきくま　正良

もや

神よりて、おいその浦のはるかなる年ハふりぜさりけり　隼孝

霧

対月

みき里出て月みる時の夢くれぬいとくるまのうらもまはゆく　白鈴

うは

うち花山ちるうこのみもがちをゆひさーて杉のみどりをかくる代也　盛亮

霞

いとまぜんいまもうくまでいとふるまさきの宿ふるれふりぬる　清矩

やまの

主のかりくくよりもーはみ山ひろ岸の春のみどりみえて　保水

雪

ちり出のおのえてもちのうるらぬハ雪のまさえの孔也けり　是無

文久三年癸亥孟春　古学彼集録